

『時事直言』 No.1227 2018年1月26日

時事直言ホームページ：<http://chokugen.com>
時事直言 携帯サイト：<http://mobile.chokugen.com>
FAX：03-3956-1313



時事評論家 増田俊男

強いアメリカ・アメリカファースト

黒田日銀総裁は記者会見(1月23日)で「景気にかかわらず現行の量的、質的緩和政策を貫く」と現行緩和政策に固執する強い意志を表明したが、私とニューヨークのアナリスト達を誤魔化すことは出来なかった。

生き物である経済を前にして如何なる中央銀行の総裁と言えども「景気がどうあろうと、又経済ファンダメンタルズ如何に関わらず現行政策の調整も変更もあり得ない」など言えるはずがない。

黒田総裁は言えるはずのない事、あるいは他の審議委員に言わせれば、言ってはならない事を言ったのだから「黒田発言には裏がある」!

2016年9月から実施しているイールドカーブ・コントロール(短期債利回りをマイナス0.1%、長期債をゼロパーセントに市場のオベで固定する操作)による預金・貸付金利差縮小で特に中小地方銀行本業の赤字が累積し続けている。

黒田総裁は2017年11月13日スイスの大学で講演した際、「リバーサル・レート」という言葉を使い、前述のイールドカーブ・コントロールが金融機関の本業である仲介業務を阻害し、金融緩和効果を逆効果(リバース効果)にしている恐れがあると述べている。

イールドカーブ・コントロールにおいて短期国債利回りをマイナスからプラスにするなどの調整の必要性を認めているのである。

にもかかわらず、前記会見で記者から地銀の赤字体質に関しイールドカーブ・コントロールの微調整を考慮しないのかと質問されるときは「まったく考えていない。又その必要はない」と言い切った。

実は黒田総裁はこの断言の直後ニヤニヤしていたが、それは「来る4月に緩和の大幅縮小とイールドカーブ微調整で皆様をアツと言わせますよ」という私を含むプロへの伝言である。

従って市場は日銀が4月からの緩和縮小、イールドカーブ・コントロール微調整に入ることを織り込まなくてはならない。

本日を起点に円安、株高。

どのタイミングに何を買い、何時売るかは「こー一番!」や「増田俊男の目からウロコのインターネット・セミナー」から学んで下さい。

増田俊男の「目からウロコのインターネット・セミナー」大好評配信中!

1ヶ月わずか約¥1,000! ご契約は1年単位になります

現在大好評配信中! 「目からウロコのインターネット・セミナー」! 視聴期間はお申込み翌月より12ヶ月となりますのでお申込み月は無料でご視聴頂けます。1か月の平均配信回数は4~6回になります。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313、HP: www.chokugen.com) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。